

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立大詫間小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・校内研究においては、問いを中心にした主体的な学びや協働的に友達と学ぶ授業を通して、自分の考えを広げたり深めたりする児童が増えた。また問いを中心にした授業改善が進み、ICTを効果的に活用した主体的・協働的な授業実践が増え、授業力の向上に繋がった。来・校内研究においては、問いを中心にした主体的な学びや協働的に友達と学ぶ授業を通して、自分の考えを広げたり深めたりする児童が増えた。問いを中心にした授業改善が進み、ICTを効果的に活用した主体的・協働的な授業実践が増え、授業力の向上に繋がった。来年度も、問いを中心に据え共有したり問い直したりする学習の中で、児童の考えをより深めるために、さらなる授業改善に取り組んでいきたい。</p> <p>・創立150周年記念式典に向けた取組や地域の方々との関わる体験活動や学校行事を通して、児童がふるさと「大詫間」のよさに気づき、地域を愛する心を育むことができた。次年度は、ふるさと大詫間や佐賀のよさに気付いたり地域の一人として何が出来るかを考えたり将来について調べたりする活動を通して、夢や目標を</p>
------------------	---

2 学校教育目標	自ら学ぶ学校、地域を愛する学校～みんな輝く！！大詫間小～
----------	------------------------------

3 本年度の重点目標	(1)「思いやりと感謝の心、自立心」を育てる。 (2)個に応じた「確かな学力の向上」を図る。 (3)「基本的生活習慣・運動習慣の確立」を図る。 (4)「郷土愛」を育てる。 (5)「交流活動の推進」を図る。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価			
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価 評価 意見や提言
●学力の向上	○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、児童の主体的・対話的で深い学びを実現する指導の充実	○問いを中心とした授業づくりと振り返りの充実を行うことで、「問いをもって学習に取り組み、自分の考えを深めたり広げたりしながら学習することができている」と回答した児童90%以上とする。 ○90%の教員が1人1台端末の効果的な活用をする	・校内研究と関連させて、児童が「問い」をもって探求し、考えを深めるような授業を設定する。 ・ICTミニ研修会を年間6回以上実施する。	・	・	・	・	・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター	
	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校生活が楽しい・友達やまわりの人に優しくできる」と回答した児童85%以上とする。	・人権集会等で命や思いやりについて考えさせ、児童の自尊感情を高める。 ・異学年交流の充実。地域や他校との交流体験・交流学習を進める。 ・「ふれあい道徳」を年1回確実に実施する。	・	・	・	・	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当 ・特別活動担当 ・各担任	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等の取組について組織的対応ができていると回答した教員95%以上とする。	・毎月最初に「いじめ・いのちを考える日」の取組として「心のカード」を書かせる。 ・「いじめアンケート」を年2回実施し、全職員で情報共有を図る。 ・毎月子ども支援会議を実施し、全職員で情報共有を行うことで見守り体制を構築し、児童の悩みの早期発見・早期対応・支援を行う。 ・各学期に「教育相談週間」を設け、きめ細かな児童観察と支援を実施する。 ・クラスの児童全員を1日1回以上褒める機会をもつ。	・	・	・	・	・生徒指導担当 ・教育相談担当 ・各担任	
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童90%以上	・キャリアパスポートを効果的に活用し、自己肯定感を育み、将来への夢や目標につなげられるようにする。 ・各種体験活動では、児童に活動の見直しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	・	・	・	・	・キャリア教育担当 ・教務主任 ・各担任	
	●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ②むし歯の未処置率を減少させるために、受診率を50%に向上させ、また保健指導を通して歯と口の健康に関する意識の向上を図る。 ③「健康に良い食事をしている」児童80%以上 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ⑤「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた児童80%以上	①委員会活動等で呼びかけを行い、休み時間以外で活動する児童を増やす。 ②歯科検診結果に受診の必要性を明記し配布する。また、保健だより等で受診勧告を学期に1回呼び、個別に呼びかけをする。 ・給食後の歯磨きの声掛けや実施状況の確認を行う。 ・早寝早起き朝ごはんの習慣の促進に向け、年3回以上保護者に周知していく機会をもつ。 ③保健だより等で、朝食の大切さや健康な食事について啓発を行う。 ④交通安全教室で学んだ道路歩行や自転車の乗り方について、年間を通し定期的に意識させ、指導を行う。また、ヘルメット着用率を高めるために、家庭への啓発を交通安全教室、終業式、懇談会で行う。 ⑤保健だよりや掲示物にて、児童が生活に活かせる健康行動を提示する	・	・	・	・	・生徒指導主任 ・保健担当 ・体育主任 ・安全教育担当 ・各担任
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	○「私のちよこつと業務削減」を職員全員が継続して行い、共有することで、全体的な業務改善につなげる。 ○特別支援に関する専門性や合理的配慮への意識が向上した教員90%以上とする。	・教育課程の標準時間の見直し、児童の下校時刻の見直しを行い、70%の職員が時間外勤務の時間を削減できたと感じられるようにする。 ・年休取得日数14日以上取れるように、長期休業中や平日の研修の見直しを行う。 ・連絡会の終わりに進行担当職員の「ちよこつと業務削減」を伝える機会をもつ。 ・毎日数分の積み重ねを意識できるようにする。	・	・	・	・	・管理職
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性や合理的配慮への意識が向上した教員90%以上とする。	・年度当初と月一回の子供支援会議での情報交換 ・特別支援教育の理解を深める学習の実施(各教室にて) ・職員研修でのユニバーサルデザイン取組みの情報交換 ・職員研修の実施	・	・	・	・	・特別支援教育コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価 評価 意見や提言
○地域・家庭と共に歩む学校づくり	○市民性を育む教育の推進 ○地域や保護者との連携	○「地域についての学習や行事に積極的に参加できた」「地域の良さを知ることができた」と回答した児童85%以上とする。	・総合的な学習の時間や生活科等と関連させ地域とのつながりを生かした学習を仕組む。 ・体験活動等、地域の人と触れ合う場を設定し、郷土を愛する心を育む。	・	・	・	・		・総合的な学習の時間担当 ・生活科担当
○今も未来もみんなが輝くことができる児童の育成	○自分で考え、自分で決めることのできる児童の育成	○気づき、考え、自分で決めて、行動することができたと回答する児童75%以上	・各行事や体験活動の中で、出番役割承認の機会を設定し、自己決定や振り返りを通して、自己肯定感を高め、自立につなげる。	・	・	・	・	・	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・
----------------	--------